

高等教育機関への進学率が9割を超えるこれからは、高校生の学習塾ブーム到来か。  
高校生へのていねい親切な学習指導で、生き残りを図ろう!!

開倫塾  
塾長 林明夫

Q：大学や専門学校などへの進学率が、9割を超えそうですね。

A：(1)はい。4年制大学への進学率は、浪人生を含め、約6割。短期大学・専門学校・専修学校への進学率は約3割。合計すると、9割超え寸前のようです。

(2)大学・短期大学・専門学校・専修学校などを「高等教育機関」と呼びますが、高等教育機関への進学率が9割を超え、高校卒業後に就職する人が、激減。

(3)4年制大学への進学者は1桁であった、かつての実業高校が、今は「専門高校」と呼ばれ、就職する人が1桁となっている高校が多数あるようです。



Q：これからも、この傾向は続くとお考えですか。

A：(1)はい。高校卒業後の高等教育機関への進学率は、近い将来、95%を超え、100%に限りなく近づいてくると推測されます。

(2)その理由の第一は、年間に生まれる出生数が、いよいよ60万人台に突入、少子化がさらに進展。大学や短期大学、専門学校、専修学校は、新入生の募集が困難を極めているため、入学しやすくなっているからです。

(3)その理由の第二は、高校や大学の学費の無料化が現実のものになり、高等教育機関への門戸が大きく開きつつあるからです。

Q：学習塾や予備校への高校生の通塾率は、これから高まるとお考えですか。

A：(1)はい。どんどん高まり5割、6割を超えてくると考えます。

(2)かつて、高校への進学率が90%、95%を超え、100%に迫ったときに、「大学習塾ブーム」が到来しました。

(3)今は、大学や専門学校など、「高等教育機関」への進学率が、90%を超える寸前で、今後、95%を超え、100%に迫ると予想されます。ですから、学習塾・予備校などへの通塾率は、5割、6割と上昇、「第二次大学習塾ブーム」が到来すると考えます。

Q：ちなみに、高校で学ぶ内容は、役に立つのですか。

A：(1)はい、役に立ちます。高校で学ぶ内容は、全部役に立ちます。高校で学ぶ内容で役に立たないものは、一つもありません。

(2)大学・専門学校など、「高等教育機関」での教育や研究は、すべて高校で学ぶ内容が基本となっているからです。

(3)社会に出て「仕事」や「社会的活動」、「日常生活」をするときにも、高校で学ぶ内容はすべて役に立ちます。人生をよく生きる上でも、高校で学ぶ内容は全部役に立ちます。

○ですから、高校卒業後も、高校の内容を一生かけて「学び直す」ことができるよう、「全教科の高校教科書」「資料集」「辞書」「地図帳」「年表」「授業ノート」は、絶対に捨てないで、キチンと保存することが、極めて重要です。



Q：大学や専門学校などで、高校内容を十分に理解し、身に付けていないとどうなりますか。

A：(1)大学や専門学校では、よほど熱心なところは「リメディアル教育(中学や高校のやり直し教育)」を行いますが、大半は、高校内容のていねいな「復習」を行っていません。

(2)高校内容を身に付けていないと、よくわからないまま大学や専門学校での教育・研究活動に入り、プロジェクトの発表や単位認定試験に臨まなければなりません。

(3)その結果、十分な成績が取れず、再試験や再履修、留年や退学の直接の原因になります。

○ですから、進学した大学や専門学校で、教育や研究活動をしっかりするためにも、高校で学ぶ全教科を理解し、身に付けておくことが大切です。

Q：それではお聞きします。学習塾や予備校では、どのような内容を高校生に指導したらよいのでしょうか。

A：(1)まずは、

①「高校生として、自覚をもって学ぶことを促す」

②「辞書・新聞・読書・図書館に慣れ親しみ、読解力を身に着けること」

③「効果の上がる学習方法を身に着けること」

④「学習習慣を身に着けること」

○この4つが、最重要です。高1入学時から高3卒業時まで、折に触れ指導し続けることが最重要です。

(2)医学部医学科、東京大学、東京科学大学、慶応義塾大学、早稲田大学など、トップ校や難関大学への進学希望者には、今まで同様、本格的な受験指導を行うべきこと当然です。

(3)①高校での「各教科の補習」

②全教科の「定期試験対策」

③自学自習スペースでの「自己学習」

④英検・漢検・数検など「検定試験」

○特に、高1生には「英検準2級」、高2生には「英検準2級プラス」、高3生には「英検2級」の合格指導。

○英検指導では、音読指導・発音指導・書き取り指導も必ず入れ、ただ合格させるだけでなく、「英語によるコミュニケーションカアップ」を図る。



Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)折角、学習塾・予備校で、高校生に受験指導や高校内容の補習、定期試験対策、検定指導などを行うのであれば、ただ単に点数だけを取らせるのではなく、「深い理解」を目指すべきと考えます。

(2)「深い理解」とは、各教科で「学んだことを、自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ことです。

(3)小学校・中学校・高校・大学・専門学校・大学院、さらには、仕事・社会的活動・日常生活・よく生きるために、「学んだことを、自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ことを目指す。

○「積小為大(せきしょういだい)」、「小さいことを、コツコツ積み上げ、大を為す、志を成し遂げる」という二宮尊徳の教えで、「深い理解」をコツコツ積み上げ、高校生活を送り、大学・短期大学・専門学校・専修学校・大学院での教育や研究活動、社会に出て、仕事・社会的活動・日常生活・よく生きるために役立つ勉強を指導することを、学習塾・予備校は、率先垂範して行い、生存を図るべきと考えます。